



有限会社沼田重機 2代目社長
 Vol.34 ぬまた まさかず
沼田 正和さん

夜が明けぬ早朝。1本の電話で1日が始まります。重機にエンジンをかけて運転手の到着を待ちます。降雪状況を見ながら、効率の良い作業をイメージし、従業員に伝えます。運送業などを営む傍ら、町道の除排雪を受け持ち、雪害の解消に汗を流します。宇隆地区の事務所を訪れ、沼田さんに話を聞きました。

町道の除雪で冬の交通障害を解消

町建設課は、今シーズン6社に除排雪を委託し、町道の総延長距離は251・8km。厚真町から七飯町の大沼公園までの距離（約262km）に匹敵します。このうち、沼田重機は、美里・新町・宇隆・東和・富里・ルーラル・フォーラム地区の町道約40kmを担当しています。気象状況にもよりますが、積雪10cmを目安に現場担当者が午前4時ごろ業務委託先に電話連絡します。「前日から、作業が予測できる場合はいいのですが、こればかりは天気次第なので、絶えず気は抜けないですね」。

通勤・通学時間帯までに除雪作業を終わらせませす。道幅が狭くならないように、道路脇に手際よく雪を寄せていき、排雪作業がある場合はすべての除雪の終了後に行うそうです。「気を遣うのは、マンホールでしょう。しばれた（厳しく冷え込んだ）時は、マンホールのふたが凍結して微妙に持ち上がりま

す。道路スレスレに除雪しようとする、ひっかけて破損につながります」。道路に凹凸がでないように、道路を熟知する重機オペレーターが、長年の経験で雪質などを見極めながら作業を進めます。

昨年1月12日。沼田さんは、役場の電話で目覚めました。外に出ると、ひざほどの積雪。「出勤途中の従業員から『途中で車が動けなくなった』と電話があり、重機で迎えに行きました。住民の皆さんの理解と協力で、混乱はありませんでした」。会社の事務は、妻のめぐみさんが担当します。家庭でも職場でも、内助の功が光ります。「子どもの成長を見ること」が、結婚20年目を迎える2人の楽しみです。

「住みやすく大好きな厚真のために、これからも誠実な仕事を通じて地域に貢献したいですね」

厚真で暮らす人、働く人、応援してくれる人、訪れる人・・・
 みんな、みんな、**ATSUMA LOVERS**